



# ズワイガニ（オホーツク海南部）

①

ズワイガニは日本以北の海域に広く生息しており、本評価群はこのうちオホーツク海南部に分布する群である。本資源の漁獲量や資源量等は漁期年（7月～翌年6月）の数値を示す。

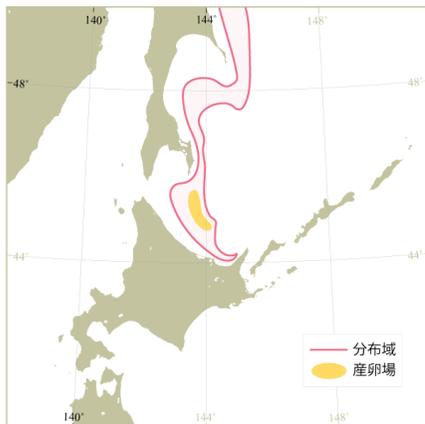


図1 分布図

本資源は日本水域からロシア水域にかけて連続的に分布する「跨り資源」である。

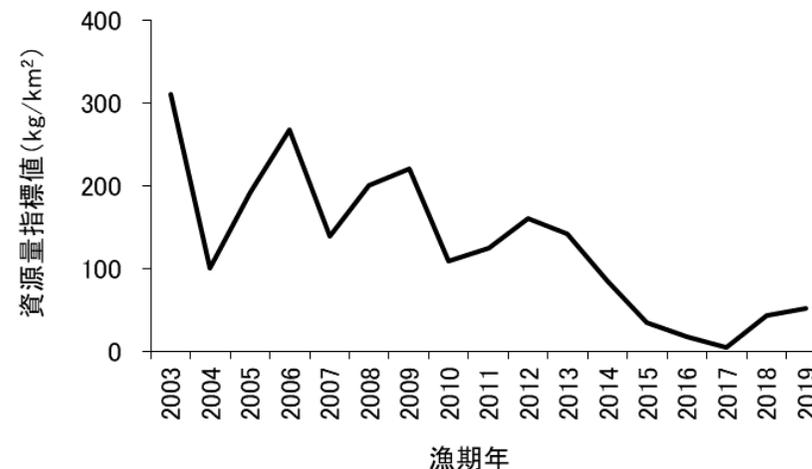


図3 資源量指標値の推移

本資源の漁獲量は、1999年以降減少を続け、2011年には60トンとなったが、その後増加した後、2019年は237トン（沖底オッター：221トン、沖底かけまわし：3トン、沿岸漁業：13トン）となった。

調査船調査による漁獲対象資源（甲幅90mm以上の雄）の分布密度推定値を資源量指標値とした。資源量指標値は、2003年以降、増減を繰り返しながら減少を続け2017年には5 kg/km<sup>2</sup>となったが、2019年には52 kg/km<sup>2</sup>へと増加した。



図2 漁獲量の推移

# ズワイガニ（オホーツク海南部）

②

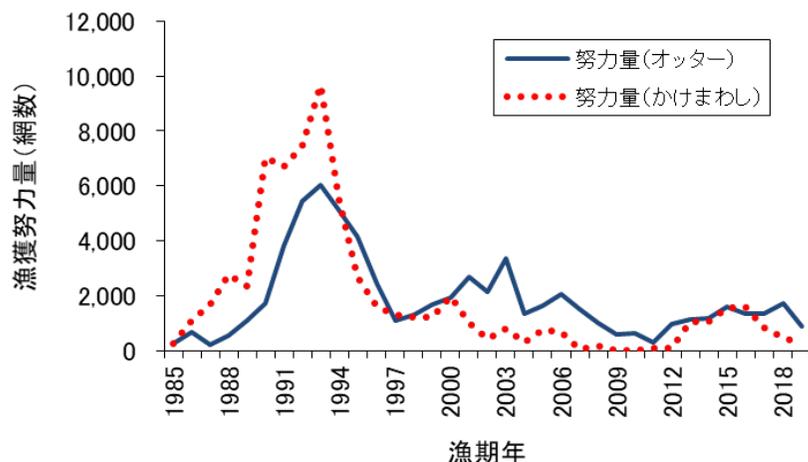


図4 漁獲努力量の推移

漁獲努力量は、オッター、かけまわし共に増減しながら2011年まで減少を続けたが、その後は増加し、2019年にはオッターで901網、かけまわしで274網となった。2015年～2019年はズワイガニ狙いの操業が増えたこと等により、漁獲量が多かったと考えられる。

本資源では、資源量指標値を資源の来遊量の指標と考えて、その資源量指標値のデータ範囲の中で算出された平均水準・過去最低値を評価の基準にすることを提案する。2019年の資源量指標値は、平均水準を下回るものの過去最低値は上回る。

## 本系群の管理基準値等の検討について

本資源では、漁獲はロシアからの来遊量に左右される一方、資源量指標値は日本水域における情報に限られ、資源全体の動向を捉えることができないことから、「漁獲管理規則およびABC算定のための基本指針」に従い計算される管理基準値（資源量水準）案に基づく漁獲管理規則の提案は困難である。

本資源では、来遊量の年変動に配慮しながら漁獲を管理することが重要である。

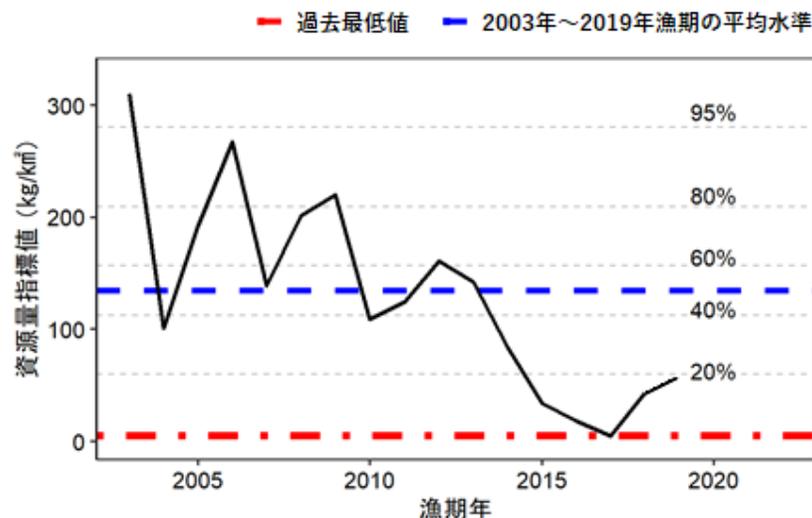


図5 資源量指標値の過去最低値と平均水準